

## ベッドの上で広がる学びの世界

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所(東京都) 下川和洋  
訪問カレッジ@希林館学生 佐藤友哉

### はじめに

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所では、特別支援学校を卒業後、重い障害のために地域の通所施設等に通うことができなかつたり、病院・施設に入所されていたりする方々に対して、「訪問カレッジ@希林館」という訪問型の生涯学習の事業を行っています。「わいわい文庫」は、2012年の事業開始時から学生の学びの中で活用させていただいています。

今年度、「わいわい文庫」受領証をメールで提出する際に、次の文書を添えて感想文集を送りました。

私どもは障害のある方の生涯学習「訪問カレッジ」の学習支援に、「わいわい文庫」を活用させていただいています。学生17名のうち10名が人工呼吸器ユーザーというきわめて障害の重い方々のうち、パソコンで読書可能な方に本書を提供しています。

その中の一人(佐藤友哉さん)が、毎回、あらずじと感想をまとめたものを昨年度、当法人主催の行事「訪問カレッジ文化フェスタ」で展示しました。

そのデータを添付いたします。毎年楽しみにしております。受領証にも書きましたが、作品選択用の「作品一覧」(書影のサイズは統一してA4用紙に順に並べたもの)をPDFで毎年送っていただいています。今年度もよろしくお願いいたします。



読書感想文集の表紙

伊藤忠記念財団の矢部様からすぐに次のようなお返事がありました。

今年度、『わいわい文庫活用術』にご執筆をいただけないでしょうか。佐藤君の感想を拝見し、その思いが強くなりました。『月・惑星探査ガイドブック』を読む力がありながら、『僕の金魚をやつらがねらう』の感想では、本物

の金魚を見たことがあまりないとの記載。状況はわかりませんが、障害が重いことがわかりました。そのような子どもに、どのような形でアプローチおよび作品を提供したか、この感想文集をどのように作ったのかなど、障害が重くて読書を諦めている子どもやその支援者にとって、大きな励ましであり参考になると確信しました。

以上が、本稿をまとめた理由になります。次に、「わいわい文庫」をどのように活用しているのか、佐藤友哉さんが報告します。

## 私の「わいわい文庫」活用法

### ①自己紹介

私の名前は、佐藤友哉です。1996年3月生まれです。好きな動物は、ねこです。好きなスポーツは、サッカーとカーリングです。好きな勉強は、美術と音楽です。

将来の夢は、2020年に開催される東京オリンピック、パラリンピックを観戦しに行くことです。

私は今、東京都にある国立病院で毎日生活をしています。生まれたところからずっと人工呼吸器を使用しているため、自分で自由に体を動かしたりすることがなかなかむずかしいのですが、お話をしたり、まばたきをしたりし、自分の思いなどを介助者に一生懸命伝えながら生活をしています。また、両

親と一緒にのときには、唇のスイッチで電動車いすを自分で運転し、病院の敷地内を散歩などしています！

2014年3月に私は、東京都立小平特別支援学校武蔵分教室を卒業しました。2014年4月からは、訪問カレッジで学習に取り組んでいます。

### ②訪問カレッジの学習の内容

訪問カレッジの授業では、パソコンの作曲ソフトで作曲したり、ペイントソフトでいろいろな絵を描いたりしています！

パソコンの操作は、ピエゾ・ニューマティックセンサースイッチ（PPSスイッチ）のセンサーを私の<sup>ひたい</sup>額の眉間に貼り付けて、自分でタイミング良く眉間を動かします。その動きをセンサーが感知して、オペレーターナビというパソコン操作のためのソフトを動かしています。

### ③「わいわい文庫」の活用方法

私は、今までに「わいわい文庫」を使用して10冊ほど読書してきました！

私が「わいわい文庫」を用いる時は、はじめに訪問カレッジの下川先生と一緒に「わいわい文庫」の表紙一覧（ポスター）やパソコンに入れてもらったPDF（表紙一覧）で、さまざまな種類の本を順番に見ていき、私が気に入った本や興味のある本などを見つけ出し、読書する本を1冊選んでいます。

読書する本を決定した後、下川先生

に依頼して、本のデータを先生のUSBメモリーから私のパソコンに取り込んでいただきます。その後、本を音声で読み上げさせ、私は読書をしています。

1冊の本をすべて読書し終えた後、本のあらすじと自分の感想をワードでまとめて読書感想文を作成しました。

#### ④「わいわい文庫」の今後への期待

最近私は、「わいわい文庫」でいろいろな冒険家さんたちなどの伝記を読書しています。

私は美術や音楽が大好きなので、今後、「わいわい文庫」でさまざまな画家さんや作曲家さんなどの伝記を読書してみたいと思っています。特に私が読書してみたい伝記は、画家のゴッホさん、彫刻家のロダンさんや平櫛田中さん、作曲家のベートヴェンさんです。



読書中の様子

#### おわりに

佐藤さんは、2017年に電動車いすを手に入れました。パソコンを操作する

際のスイッチは、額に貼り付けたPPSスイッチですが、電動車いすを操作する際のスイッチには上唇を使っています。生まれて20年以上ベッドか車いすに乗り、他者に押しってもらうしかなかった彼が、病院の中庭を一人で電動車いすを操作する様子を見て、彼を知る人は皆、大変驚きました。去年は、美術館で館内を巡っている間に迷子になるという経験をしたそうです。つい数年前には想像もできなかったことです。

「わいわい文庫」での読書やインターネット、テレビなどで得た知識をもとに、今後はリアルな経験につながっていくことを期待しています。



オペレートナビ操作による読書中のパソコン画面



電動車いすを操作して美術作品展を鑑賞している様子